

検定試験認証の手引き

Ver.1.3

(2011年8月)

特定非営利活動法人 実務能力認定機構

特定非営利活動法人 実務能力認定機構（[Accreditation Council for Practical Abilities] 以降 ACPA（アクパ）と表記する）は、「実務に的確に対応できる人材」を育成することを目的として種々の認証・認定事業を行っています。

本書は検定試験提供機関を対象としたドキュメントであり、検定試験提供機関が保有する教育検定試験を ACPA に申請し、上記目的に即していることの検定試験認証を受けるための手順や申請書類の記述方法などを説明しています。

【改訂履歴】

ver.	年月日	更新内容
1.1	2008/12/3	実務能力記述シート見直し、レベル3説明追加
1.2	2010/9/10	更新審査項目、申請スケジュール項目追加
1.3	2011/8/10	文言修正等

検定試験認証の手引き 目次

1 . ACPA 検定試験認証とは	4
1 . 1 検定試験認証の目的と定義	4
1 . 2 検定試験認証の位置付け	4
1 . 3 検定試験認証のメリット	5
1 . 4 審査単位	5
2 . 検定試験認証プロセス	6
2 . 1 認証プロセスの概要	6
2 . 2 提出書類	7
2 . 3 検定試験申請書類の概要	7
2 . 4 審査料	8
2 . 5 書類提出先	9
2 . 6 ホームページとメールアドレス	9
2 . 7 情報の公開.....	9
3 . 審査項目と審査基準	10
3 . 1 実務能力基準表の概要	10
3 . 2 認証のスキル項目	10
3 . 3 審査項目	11
3 . 4 審査基準	11
4 . 申請書類の書き方	14
4 . 1 検定試験申請書	14
4 . 2 検定試験シート	15
[1] 基本情報シート.....	15
[2] 実務能力記述シート	17
付録	18
付録1 申請書	18
付録2 検定試験シート.....	20

1. ACPA 検定試験認証とは

1.1 検定試験認証の目的と定義

検定試験認証とはプロフェッショナルとして、ビジネスにおいて即戦力となり得る職務遂行能力を習得するための学習を提供する検定試験の品質・効果を保証することを目的とし、ACPAが定義する職種専門分野の特定領域の実務能力の付与するに足る検定試験であることを証明するものである。

1.2 検定試験認証の位置付け

検定試験認証は他の認証制度（機関、講座、個人）と密接に連携している。

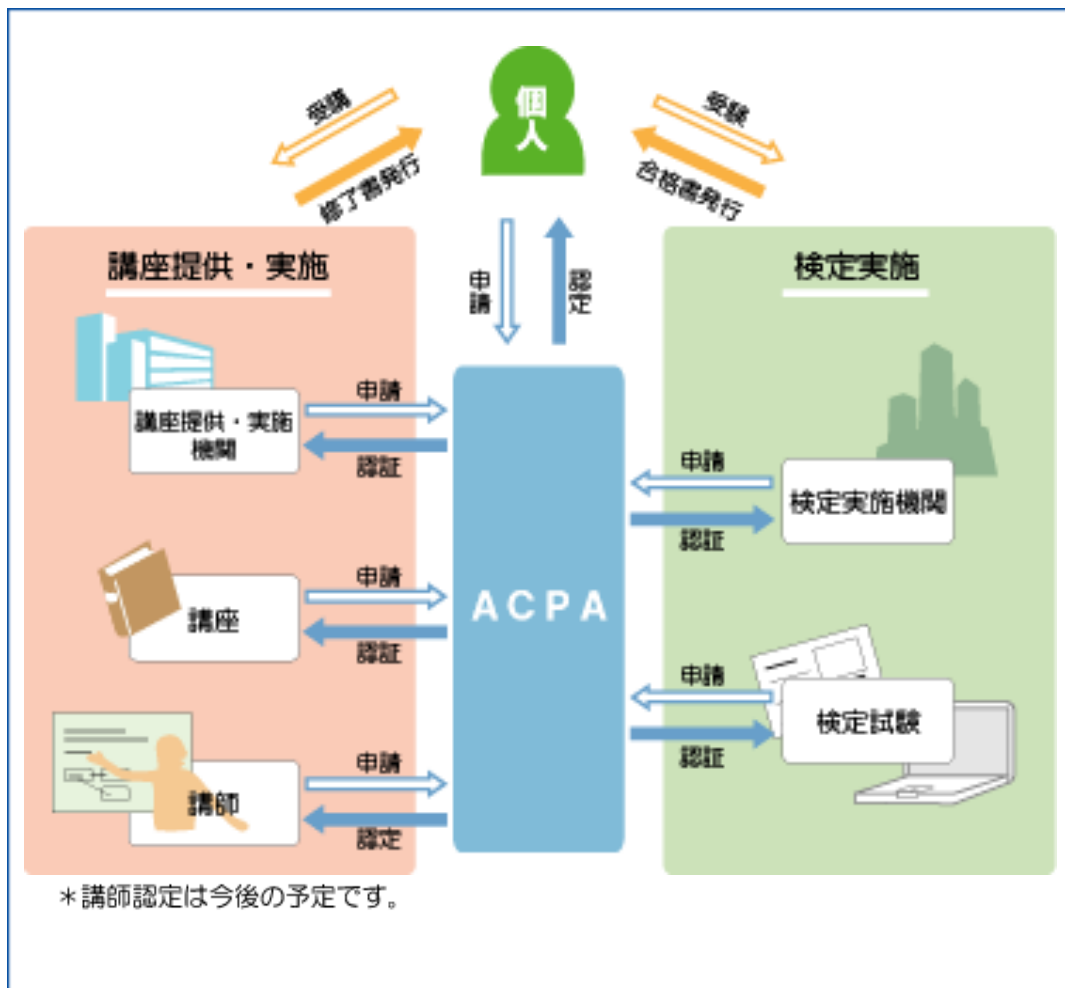


図1 認証・認定関連図

- 講座認証 : ACPA が定めた基準にもとづいて、講座を構成する要素を審査する。実務に必要なスキルを、どの程度修得できるかを明確にし、講座の質と効果を認めるものある。

- 検定試験認証 : 検定試験の運用体制、実施形態、内容などが優れていること、および検定試験合格者がビジネスにおける実務能力を備えているかどうかの判定に有効であることを認めるものである。
- 個人認定 : 個人がプロフェッショナルとして、そのビジネスにおいて即戦力となり得る職務遂行能力を備えていることを認めるものである。
- 講座提供機関認証 : 教育機関（企業・大学）が保有する講座をACPAに対し、認証申請する場合、これまでの実績から見て継続的に安定して講座提供できる機関であることを認めるものである。
- 講座実施機関認証 : ACPA認証講座を実施し、講座を修了した個人に対して、修了書の発行やACPA個人認定のためにACPAへの協力が可能であることを認めるものである。
- 講師認定 : 「認証講座」を受講者に対し的確に提供できる技術・能力・知識を持つ講師であることを認定するものである。

1.3 検定試験認証のメリット

《提供機関・実施機関にとってのメリット》

検定試験の認証を受けたことにより、その検定試験に関する品質保証が第三者機関より得られたことになる。それにより、検定試験はACPAのホームページ上で紹介されると同時に与えられたACPA登録マークを利用することができ、受講者に強くアピールできる。

《受講者にとってのメリット》

受講者は開示された検定試験情報（教育機関が通常提供するものよりさらに詳細なもの）を見ることが可能となり、自己の資格取得や能力確認につながる検定試験を的確に選択・受験することができる。認証された講座の受講修了と併せて、認証された検定試験の合格により、個人の実務能力のスキルをトータルに確実に証明することができる。

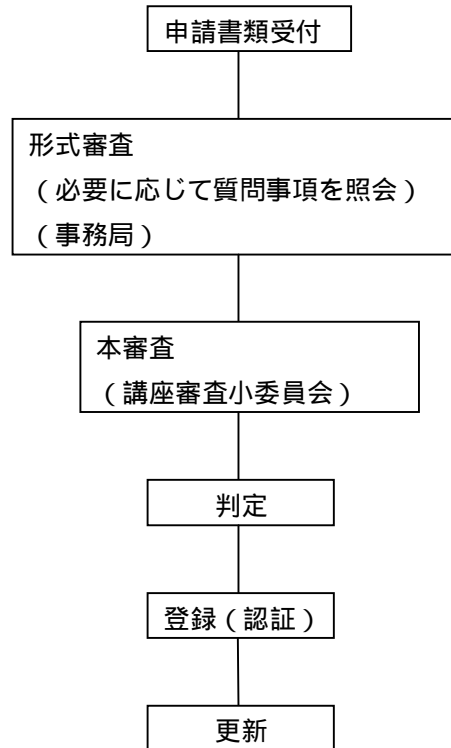
1.4 検定試験認証の審査単位

検定試験認証の審査単位は、実施される検定試験単位とする。

2. 検定試験認証プロセス

2.1 認証プロセスの概要

検定試験認証試行のプロセスは以下の図のようになります。



2.2 提出書類

- (1) 検定試験認証申請書
- (2) 検定試験シート
- (3) 付属資料
 - (ア) 法人の場合、定款*
 - (イ) 会社案内または学校案内*
 - (ウ) 受験案内
 - (エ) 検定試験情報
 - (オ) 試験問題(解答および解説を含む)(実施済みのもの過去3回分)。提出できない場合は、模擬試験問題などの類似の問題例でもよい。
 - (カ) 試験問題自己点検資料(問題の難易度、プライリテイ、得点分布など)

(キ) 付属説明資料(必要な場合)

試験問題作成の手順説明資料

検定試験内容改善のマニュアル資料

*上記(3)の(ア)および(イ)の資料は、最初の検定試験の申請の時のみとする。ただし、2回目以降の申請において、資料内容の変更があった場合は、変更部分の再提出をおこなう。

【注意事項】

申請に必要な書類は、ホームページ(AcPASS)よりダウンロードすることができます。

申請書類、特に検定試験シートは申請の都度、最新のバージョンのものをダウンロードして使用して下さい。

2.3 検定試験申請書類の概要

申請機関が作成して提出する書類は以下のとおりです。

検定試験申請書：

1 検定試験あたり1枚を作成します。申請機関名、連絡先、申請検定試験名等を記述し、申請機関の責任者の捺印(代表印、役職印など。個人印は不可)をして下さい。

検定試験シート

1) 基本情報シート：

申請する検定試験に関する詳細情報を記述する書類です。検定試験名、検定試験のねらい、検定試験概要、対象者、前提条件、修了条件等を記述します。

2) 実務能力記述シート：

申請した検定試験が、ACPAの実務能力基準表で定めている、どの職種を想定して作成されているのか、また、どのスキル(スキル小項目)をどの程度の習熟度で得ているかを記述します。

2.4 審査料

審査料は、別途定める。

2.5 処理の流れ

ACPA事務局(検定試験認証担当)は提出書類を受領し、申請書類を確認します。その際に不備があれば申請機関に訂正の依頼を行います。

ACPA は申請書類をベースに ACPA 検定試験認証基準に則して審査を(ACPA 事務局による形式審査) します。不明点等あった場合には、申請機関に書類の提出を求めたり、質問することもあります。形式審査を通過した検定試験に関して、審査委員会(講座審査小委員会)により審査を行います。

ACPA の検定試験審査結果は郵送で申請機関に通知いたします。

ACPA ホームページに、認証された検定試験の情報を公開します。

認証の有効期限は 3 年です。3 年後、申請機関からの更新審査申請に基づき、更新審査を行います。申請手順は「2. 検定試験認証プロセス」と同様です。

2. 6 書類提出先

特定非営利活動法人 実務能力認定機構(ACPA)
住所: 〒162-0045 東京都新宿区馬場下町5、早稲田駅前ビル 3 階
電話: 03-5273-9127 FAX: 03-3203-4613

2. 7 ホームページとメールアドレス

・ ACPA ホームページ : <http://www.acpa.jp>
・ AcPASS ホームページ : <http://acpass.acpa.jp>
(AcPASS では実務能力基準の詳細閲覧と書類のダウンロードができます。)
・ E-mail アドレス : inqg@acpa.jp

2. 8 情報の公開

審査に合格し、登録になった検定試験については、ACPA ホームページに公開する。公開する情報は、次の項目である。

- 1) 番号
- 2) 認証日
- 3) 検定試験名
- 4) 提供機関名
- 5) 提供機関の URL
- 6) スキル

- 7) 職種
- 8) 試験の概要
- 9) 取得資格

3 審査項目と審査基準

3.1 実務能力基準表について

実務能力基準表とは、社会で広く求められている実務能力の基準を、ACPA で独自に定義した職種、スキルを使い可視化したものです。

職種に対して必要とされるスキルと職種の相関表で表した「スキルマトリクス」、ACPA で定めた職種の解説書である「職種ガイドライン」、スキル項目を説明した「スキル項目説明書」を総称して実務能力基準表と呼んでいます。IT 分野とビジネス分野と語学分野に分かれております。

スキルマトリクスは、実務能力基準表の中で、スキルと職種の相関を表すマトリクスチャートです。縦軸に「スキル項目」、横軸に「ACPA で定めた職種」を配置し、受講者は、自らの職種・キャリアパスに沿って、目標となる職種の中で重点的に修得する必要のあるスキルを把握することが出来ます。そのガイドラインに沿い、自分にとって必要なスキルを検討し、そうしたスキルを修得したり補完したりするための検定試験を見つける目安となります。

実務能力基準表の内容は、ACPA のスキルアップの為に情報発信 web サイト AcPASS (<http://acpass.acpa.jp>) で公開されています。検定試験シートに記入する際などにご活用下さい。

3.2 検定試験認証のスキル項目

スキル項目は、実務能力を構成するスキルのうち、「知識」、「技能」に関するスキルを表記しています。実務能力基準表では、主にエントリーレベルを対象にしたスキル分類を大きく12のカテゴリーに分け、各々のスキル中項目を設定しています。各スキル中項目には、対象者が自らのスキルを補うことができるように細分化したスキル小項目を設定しています。

検定試験認証は、このスキル小項目単位で行います。つまり、検定試験認証とは、その検定試験が特定のスキル小項目を修得するに十分な内容であるということを証明することになります。

申請機関は、申請書類「検定試験シート」の中に認証申請するカテゴリー、スキル中項目、スキル小項目を指定してください。

3.3 審査項目

検定試験認証の主な審査項目は、以下のとおりです。
 該当書類に各審査項目について必要事項を記述します。

NO	審査項目	項目説明	該当書類
1	検定試験名	検定試験の名称	検定試験申請書 検定試験シート
2	検定試験提供機関	検定試験の提供者の内容	検定試験シート
3	検定試験のねらいと取得できる資格	検定試験の目的、ねらい、メリット、測ろうとする能力〔知識、対応力、実践力、学力、性格、行動など〕、および検定試験合格によって取得できる資格	検定試験シート
4	検定試験実施形態と実施環境	検定試験の実施形態（マークシート、CBT、ビデオ評価試験、その他）と試験実施環境	検定試験シート
5	実施場所	検定試験を実施する都市名や施設名	検定試験シート
6	実施時期と回数	検定試験を実施する年間の時期と回数	検定試験シート
7	受験対象者と受験前提条件	受講対象者が受講するにあたって事前に有する知識・能力	検定試験シート
8	検定試験内容	試験範囲と出題比率、出題方法、試験時間、試験実施方法	検定試験シート
9	合格条件	合格最低点、過去の合格割合、得点分布	検定試験シート
10	検定試験運用のプロセス	試験問題作成の体制と運用のプロセス	検定試験シート
11	実施実績	過去2回以上の受験者数と合格者、および合格率	検定試験シート
12	検定試験内容改善の方策	検定試験の継続的なメンテナンスと信頼性の保持と品質管理のための方策	検定試験シート
13	スキル項目と習熟度	ACPA実務能力基準表のスキル対応（スキルカテゴリー/スキル中項目/スキル小項目/構成要素）と習熟度レベル	検定試験シート
14	職種対応	ACPA実務能力基準表の職種対応（職種レベル/職種/専門分野）	検定試験シート

3.4 審査基準

各審査項目の審査基準は以下のとおりです。

- 検定試験名**

検定試験の内容が適切に表現されている検定試験名称であること。

- 検定試験提供機関**

検定試験の提供者として、組織、体制が適切であること。

- 検定試験のねらいと取得できる資格**

検定試験の目的、ねらい、が適切であること。どのような能力〔知識、対応力、実践力、学力、性格、行動など〕を測ろうとするかがはっきりしている。検定試験合格によって取得できる資格が適切であること。

- 検定試験実施形態と実施環境**

試験実施形態、試験実施環境が目的ならびに対象に照らして適切である適切な学習環境が確保されていること。

- 実施場所**

実施場所が、検定試験の目的ならびに対象にてらして適切であること。

- 実施時期と回数**

実施時期が受験者にとって問題がない時期ならびに回数であること

- 受験対象者と受験前提条件**

受験対象者の範囲ならびに要求する事前知識や条件が適切であること。

- 検定試験内容**

試験の出題範囲と出題比率が、検定試験の目的にてらして適切であること。
試験時間が、出題内容にてらして適切であること。出題方針が明確で適切であること。
検定試験の内容や範囲をわけて実施する場合の検定試験の実施方法が、目的にてらして適切であること。

- 合格条件**

合格最低点の設定が適切であり、合格判定の手続きが適切であること。

- 検定試験問題作成と運用のプロセス**

検定試験問題作成の体制(例えば、試験問題委員会)と運用プロセスが適切であること。

- 実施実績**

受験者数と合格者ならびに合格率からみて、最近3年間の実績が問題ないこと。

- 検定試験内容改善の方策**

検定試験のメンテナンス品質改善の適切な方策がとられていること。試験問題と回答結果を分析し、検証する方法が適切であること。

●**スキル項目と習熟度**

試験内容に適合する実務能力基準表のスキルの項目が適切であること。試験内容に適合する習熟度レベルが適切であること。

- ・習熟度 1 ... 概要を理解している。
- ・習熟度 2 ... 詳細を理解していて、応用できる。
- ・習熟度 3 ... 活用し、実務に実践できる

●**職種対応**

試験内容に適合する実務能力基準表の職種レベルと職種専門分野が適切であること。

4. 申請書類の書き方

4.1 検定試験申請書

(説明)

- ... 検定試験申請する年月日を記入してください。
- ... ACPA の検定試験提供機関を表す機関番号です。事務局で記入します。
- ... 申請する会社名または学校名、および部門名を記入してください。
- ... 申請機関（部門）の住所を記入してください。
- ... 申請機関の責任者名の記入と捺印をしてください。
- ... 申請機関で管理している検定試験の正式な名称を記入してください。（ここに記入された検定試験名が、正式な名称として ACPA に登録されます。）
- ... 連絡担当者の氏名、所属、役職、住所、電話番号、FAX 番号、e-mail アドレス、申請機関の URL を記入してください。

4.2 検定試験シート

[1] 基本情報シート

(1) 記入日:

記入した日付を記入してください。内容を更新して事務局に再度提出する場合などは、必ず内容を更新した日付を記入して提出してください。

(2) 検定試験名称:

検定試験申請書に記入した検定試験の正式名称を記入してください。

(3) 検定試験提供機関:

検定試験認証を申請する機関の名称を記入してください。

(4) 検定試験提供機関 URL:

検定試験提供機関のホームページの URL を記入してください。

(5) 検定試験のねらいと取得される資格:

検定試験の目的、ねらい、メリット、測ろうとする能力〔知識、対応力、実践力、学力、性格、行動など〕、および検定試験合格によって取得できる資格を記入してください。

(6) 実施形態と実施環境:

検定試験の実施形態（マークシート、C B T、ビデオ評価試験、その他）と試験実施環境を記入してください。

(7) 実施場所:

検定試験を実施する場所を、都市名や施設名をつけて記入してください。

(8) 実施時期と回数:

検定試験を実施する年間の時期と回数を記入してください。

(9) 受験定員:

検定試験を実施する際の受験定員数を記入してください。

(10) 受験対象者と受験前提条件:

受験対象者の範囲がどのような人であるかと受験のための前提となる事前知識と条件を記入してください。

(11) 検定試験内容:

検定試験の出題範囲と出題比率、試験時間、出題方針、ならびに試験の内容や範囲をわけて実施す

る場合の試験の実施方法などの試験実施方法を記入してください。

(12) 合格条件:

合格最低点、過去の合格割合、得点分布および、合格判定の会議の構成と手順を記入してください。

(13) 検定試験運用のプロセス:

検定試験問題作成のための、専門の人からなる試験問題委員会の構成など問題作成の体制と運用のプロセスを記入して下さい。

(14) 実施実績:

最近3年間の受験者数と合格者、および合格率などの実績を記入して下さい。

(15) 検定試験内容改善の方策

検定試験の継続的なメンテナンスと信頼性の保持と品質管理のための方策、ならびに問題の作成過程および過去の試験問題と回答結果を分析し、検証する方法などを記入して下さい。

(16) 基準表スキル項目と習熟度レベル:

ACPA 実務能力基準表 (IT 分野、ビジネス分野、語学分野) のスキル対応 (スキルカテゴリー/スキル中項目/スキル小項目/構成要素) と習熟度レベルを記入して下さい。

(17) 基準表職種対応:

ACPA 実務能力基準表の職種対応 (職種レベル/職種/専門分野) を記入して下さい。

(18) 特記事項・備考:

この検定試験について、注意を要する事項について記入して下さい。

[2] 実務能力記述シート

職種とそのレベル

No	職種とそのレベル	専門分野
1		
2		

この検定試験が対象としている職種とそのレベルを記入して下さい。

ACPA が定めている職種とその専門分野および、職種のレベルを選択します。

職種は、IT 分野とビジネス分野に分かれています。どちらかの該当する分野から選択してください。

職種レベルは、下記の基準を参考にしてください。

(職種の定義については、AcPASS(<http://acpass.acpa.jp>)あるいは、最新の職種ガイドラインを参照して下さい。)

- ・レベル0 : 就職前の準備段階。未就職者(入社前の学生やIT 分野への就職転換者が対象となる。)
- ・レベル1 : 情報技術に携わる者に最低限必要な基礎知識を有する。スキル開発においては、自らのキャリアパス実現に向けて積極的なスキル研鑽が求められる。専門職種を意識することなく、上位者の指導の下に担当作業を実施する。
- ・レベル2 : プロフェッショナルとなるために必要な基本的知識・技能を有する。スキル開発においては、自らのキャリアパス実現に向けて積極的なスキルの研鑽が求められる。チームメンバとして、上位者の指導の下に担当作業にかかる技術を理解し、作業の一部を独力で遂行出来る。
- ・レベル3 : スキルの専門分野確立を目指し、プロフェッショナルとなるために必要な応用的知識・技能を有する。スキル開発においても自らのスキルの研鑽を継続することが求められる。チームメンバとして与えられた業務を独力で遂行できる「実務能力」を有する。このレベルから、将来担うべき職種ごとの専門性が徐々に形成され始める。

スキル

この検定試験で認められるスキル小項目の特定

No	カテゴリ	スキル中項目	スキル小項目	習熟度レベル
A				
B				

ACPA が定めているスキル小項目を、カテゴリー、スキル中項目の順に選択し、該当検定試験で修得できるスキル小項目とそのスキル習熟度を選択します。スキル習熟度は、下記の基準を参考にしてください。

スキル項目の説明については、「スキル項目説明書」を参照して下さい。

- ・習熟度1 : 検定試験の学習体系の中で、スキル項目について基本的な内容を含んでいる。
これを確認する方法として、簡単なテストやレポートなどを課し、テストの成績やレポートの内容などを評価することにより、相応の能力が修得できたことを判定する。
- ・習熟度2 : 検定試験の学習体系の中で、スキル項目について詳細な高度な内容を含んでいる。
これを確認する方法として、演習、実習、課題レポート、テストなどを課し、演習や実習の状況と結果、課題レポートの内容、テストの成績などを評価することにより、相応の能力が修得できたことを判定する。
- ・習熟度3 : 検定試験の学習体系の中で、スキル項目について実践において応用できる高度な内容を含んでいる。
これを確認する方法として、まとまった規模のプログラムの作成、演習、実習、課題レポート、テストなどを課し、プログラムの品質や、演習や実習の状況と結果、課題レポートの内容、テストの成績などを評価することにより、応用活用能力が修得できたことを判定する。

申請スキル小項目の詳細記述

No	カテゴリー	スキル中項目	スキル小項目	習熟度レベル
A	で指定した項目が表示されます。			

上記の小項目を構成する要素一覧

No	要素	内容説明	
A1			
A2			

で指定した各スキル小項目について、さらにそれを構成するスキル要素を選択してください。
スキル項目と要素の説明については、「スキル項目説明書（IT分野）」、「スキル項目説明書（ビジネス分野）」、「スキル項目説明書（語学分野）」を参照して下さい。

ver.1.0 (2007.11.01)

年 月 日

検定試験認証申請書

実務能力認定機構理事長 殿

ACPA 機関番号： _____
申請機関名： _____
住所： 〒 _____
申請機関責任者： _____ (印)

下記講座について、検定試験認証の申請をします。

検定試験名称： _____

(連絡先)

氏名： _____
所属/役職： _____
住所： 〒 _____
電話番号： _____
FAX 番号： _____
e-mail： _____
URL： _____

検定試験シート

[1] 基本情報シート

基本情報シート	
記入日	
検定試験名称	
検定試験提供機関	
検定試験提供機関 URL	
検定試験のねらいと取得される資格	
実施形態と環境	
実施場所	
実施時期と回数	
受験定員	
受講対象者と受講前提条件	
検定試験内容（試験範囲と出題比率、出題方針、試験時間、試験実施方法）	
合格条件	
検定試験運用のプロセス	
実施実績	
検定試験内容改善の方策	
基準表スキル項目と習熟度レベル	
基準表職種対応	
特記事項・備考	

[2] 実務能力記述シート

●この試験が対象としている職種とそのレベル

No	職種とそのレベル	専門分野
1		
2		
3		

この試験が対応するスキル小項目の特定

No	カテゴリー	スキル中項目	スキル小項目	習熟度レベル
A				
B				
C				
D				
E				

申請スキル小項目の詳細記述

No	カテゴリー	スキル中項目	スキル小項目	習熟度レベル
A				

上記の小項目を構成する要素一覧

No	要素	内容説明
A1		
A2		

付録1 料金表

2010年5月25日現在

講座認証

審査料	更新審査料
¥40,000	¥15,000

- 認証の有効期限は3年です。
- 講座認証・検定試験認証から3年後、更新審査申請に基づき更新審査を行います。
(更新審査料が発生します。)
- 2011年度より、講座認証・検定試験認証の申請時期が年2回に限定されます。
 - ・ 2011年度より、講座認証・検定試験認証の申請時期が年2回に限定されます。
 - ・ 1クール： 受付3月～5月 → 審査6月～9月 → 10月1日認証
 - ・ 2クール： 受付9月～11月 → 審査12月～3月 → 4月1日認証

